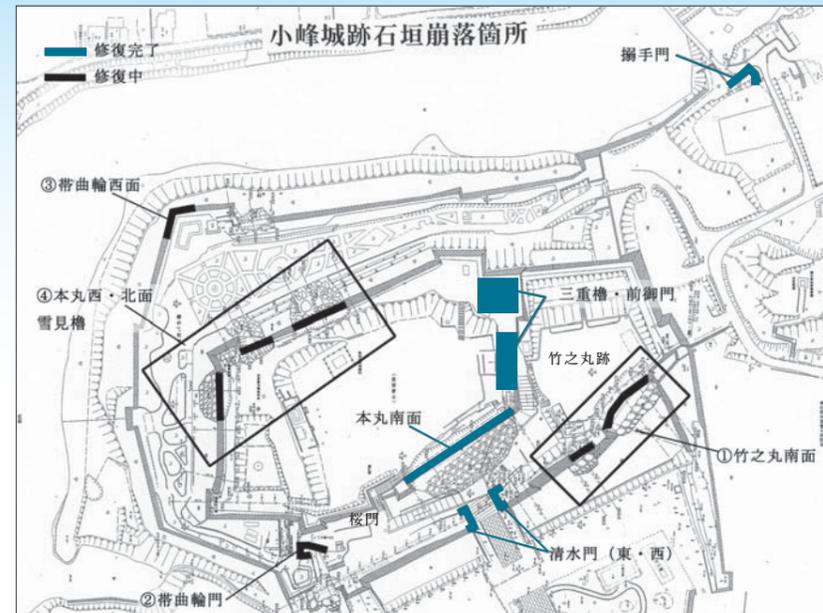


修復が進む城郭

震災の影響で、小峰城の石垣は、崩落やはらみなど、16か所の修復が必要となりました。平成25年から修復工事が行われ、これまでに、3か所の工事が完了しています。今月号では、現在行っている石垣修復工事等の状況をお知らせします。

◎本庁舎文化財課 ☎2310



▲解体後の石垣

③帯曲輪西面

帯曲輪は、本丸より一段下がった西・北面の一带を言い、以前この場所にはバラ園がありました。震災では、西側の角付近の石垣に大きく外側に膨らむ「はらみ」が出たことから、解体し積み上げを行うことにしました。

石垣背面の盛土状況、表面の観察結果などから、最低でも江戸時代に2回の積み直しが行われたことが確認できました。

現在、解体調査がほぼ終了し、間もなく積み上げ工事に着手する予定です。

④本丸西・北面

本丸の西面で1か所、北面で2か所が崩落し、崩落を免れた北西隅の雪見櫓の石垣も大きくはらみが生じたことから、これらを一体的に修復します。

現在、石垣上面の発掘調査を実施していて、終了後に雪見櫓の石垣などの解体を行う予定です。



▲崩落した本丸西・北面の石垣



▲雪見櫓の発掘調査

現在の石垣修復工事等の状況

①竹之丸南面

竹之丸跡は、本丸の東側に設けられた平場です。その南面にある石垣が、震災で広範囲にわたり崩落しました。

石垣の背面盛土や表面の調査から、江戸時代に最低でも3回の修復が行われたことを確認しました。また、昭和に行われた修復跡も確認しています。

現在、崩落箇所には挟まれた中央部の出隅部分（石垣の突出部）の解体調査がほぼ終了し、間もなく積み上げ工事に着手する予定です。



▲石垣解体後の状況

②帯曲輪門

帯曲輪門は、旧バラ園の入口にあたります。石垣の崩落は免れたものの、前方に大きく傾いたため、解体し積み上げを行うことにしました。

石垣の背面盛土の観察結果などから、江戸時代に最低でも1回の積み直しが行われたことを確認しました。また、門跡の礎石の存在も確認できました。積み上げ工事は、間もなく完了する予定です。



▲発掘された門跡の礎石



▲石垣の積み上げ作業

小峰城は石垣博物館

小峰城に現存する石垣を観察すると、積み方の異なる箇所が多くみられ、江戸時代からその都度、不具合の生じた石垣を修復し存続させてきたことが確認できます。今回の修復に伴い実施した発掘調査の結果、古い時期の石垣の存在や、表面では分からなかった修復の痕跡が確認できるなど、小峰城石垣の歴史の一端を明らかにすることができました。

様々な姿の石垣は、さながら「石垣博物館」の様相を呈しています。今後も修復工事を通して、石垣構築技術や修復の歴史を明らかにし、その素晴らしさを多くの人に伝えていきます。

Topic

4年振りの三重櫓一般開放

平成25年から、石垣の積み上げ工事に着手した本丸南面は、ようやく今年3月に全ての工事が完了しました。また、柱のゆがみや亀裂、基礎のずれ、屋根瓦の破損などの被害を受けた三重櫓・前御門も同時期に修復が完了しました。

4月19日には、「小峰城復興式」が行われ、約4年間立ち入りができなかった清水門から前御門、そして本丸・三重櫓までが一般開放されました。現在は、竹之丸南面の石垣修復工事のため、桜門から本丸に上ることになります。三重櫓は、午前10時から午後4時30分まで見学ができますので、ぜひご覧ください。



▲復興式で三重櫓を目指し石段を上る見学者